

「ユネスコ活動の活性化について(建議)」のフォローアップ状況等

実績	今後の予定
<p>1 SDGs達成に向けた、持続可能な開発のための教育（ESD）の推進における主導的な役割の維持</p>	
<p><ESDに関する国際動向></p>	
<p>○第40回ユネスコ総会において、「ESD for 2030」の枠組みに関する決議を採択。(令和元年11月、於:ユネスコ本部(フランス))</p> <p>○第74回国連総会において「ESD for 2030」に関する決議を採択。(令和元年12月19日、於:国連本部(米国))</p> <p>○「ESD for 2030」ロードマップ作成に係る非公式コンサルテーション会合に出席。(令和元年10月24日～25日、於:ユネスコ本部(フランス))</p> <p>○国連ハイレベルウィークにおけるサイドイベント「持続可能な開発のための教育(ESD):気候変動アクションに向けた学び」への出席。(令和元年9月22日、於:国連本部(米国))</p> <p>○ESDに関するユネスコ世界会議に萩生田文部科学大臣(当時)が出席。(令和3年5月17日～19日、オンライン)</p> <p>○第1回「ESDに関するベルリン宣言」ドラフティンググループ会合に出席。(令和3年3月4日、オンライン)</p> <p>第2回「ESDに関するベルリン宣言」ドラフティンググループ会合に出席。(令和3年4月6日、オンライン)</p> <p>第3回「ESDに関するベルリン宣言」ドラフティンググループ会合に出席。(令和3年5月4日、オンライン)</p> <p>○ESD for 2030アジア太平洋地域テクニカル会合にスピーカーとして出席。(令和3年5月27日、オンライン)</p> <p>○ESDオンラインワークショップ「ESDの変革カーポストコロナの世界に向けて」がユネスコの主催により開催。(令和2年9月から令和3年4月までの期間に、毎月1回)</p> <p>第1回(令和2年9月9日)、第2回(令和2年10月14日)に我が国からのスピーカーを輩出。ワークショップに先立って開催された専門家によるオンラインシンポジウム(令和2年9月8～9日)にも我が国の専門家が出席。</p> <p>○ESD for 2030ロードマップに係るアジア太平洋地域ローンチウェビナーにパネリストとして出席。(令和2年11月19日、オンライン)</p>	<p>○可能な限り、国連本部におけるサイドイベントを継続予定。</p>
<p>○第41回ユネスコ総会会期中のサイドイベントとして開催された、2021年ユネスコ/日本ESD賞の表彰式に出席。(令和3年11月19日、於:ユネスコ本部(フランス))</p> <p>○「第5回持続可能な開発、グローバル市民、健康及びウェルビーイングのための変革的教育に関するユネスコフォーラム」に出席。(令和3年11月29日～12月1日、オンライン)</p> <p>○国連ハイレベル・ポリティカル・フォーラムにおいて、サイドイベント「より良い未来のための学習の変革:持続可能な開発のための教育」が開催され、パネリストとして出席(令和4年7月12日、オンライン)。</p>	<p>○次回のユネスコ/日本ESD賞は、2023年に実施予定。</p> <p>○可能な限り、国連本部におけるサイドイベントを継続予定。</p>

実績	今後の予定
<p>○国連大学を通じたESDの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年8月現在、世界で185カ所(うち日本国内は8カ所)の国連大学認定ESD拠点(RCE)が認定されており、そのネットワークを活用することにより、世界的なESD推進に貢献。 ・気候変動対策のためのESDに関するRCEの事例集を出版。(令和3年4月27日) ・「ESDに関するユネスコ世界会議」において気候変動教育に関するバーチャルブースの出版やRCEに関する情報提供を実施。(令和3年5月17～19日) ・RCEのグローバル・ウェビナーを開催。(令和3年6月8日) ・国内ステークホルダー向けの世界会議に関するオンライン報告会を開催。(令和3年7月1日) ・国際ユース・デーを記念し、RCEの若者による気候変動対策をテーマにしたウェビナーを開催。(令和3年8月11日) ・RCEアフリカ地域会合(令和3年9月2日)、RCEアジア地域会合(令和3年10月5日)、アメリカ地域会合(令和3年10月5～7日)、グローバルRCE会議(令和3年11月16～18日)をいずれもオンラインで開催。 ・多セクターの若手リーダーを対象に気候変動対策に関する教育プログラムを実施。(令和3年9月14～24日)。 ・ProSPER.Net(アジア太平洋環境大学院ネットワーク)の一環で、気候変動対策に向けた新型コロナウイルス感染症からの教訓に関するウェビナーを開催。(令和3年10月22日) ・RCEの事例集「生物多様性保全に向けたコミュニティの参画:グローバルRCEネットワークによるESDプロジェクト」を発行。(令和4年4月22日) ・RCEアジア地域会合を実施。(令和4年7月19～21日) ・国際ユース・デーを記念し、RCEの若者による生物多様性をテーマにしたウェビナーを開催。(令和4年8月12日) 	<p>○RCEアメリカ地域会合(令和4年10月3～5日)、RCEヨーロッパ地域会合(令和4年10月11～13日)、RCEアフリカ地域会合(令和4年11月28～30日)を実施予定。</p> <p>○持続可能な生産と消費に関するRCEの事例集を出版予定。(令和5年3月頃)</p>

＜SDG4に関する国際動向＞	
<p>○グローバル教育会合(Global Education Meeting(GEM))臨時会合にスピーカーとして出席。(令和2年10月20日(テクニカル会合)、22日(ハイレベル会合)、オンライン)</p> <p>○アジア太平洋地域SDG4 5年進捗レビューに係る東アジア・中央アジアサブリージョナル会合に出席。(令和2年10月27日、オンライン)</p> <p>○第1回グローバル教育協カメカニズムに関するワーキング・グループに出席。(令和3年1月19日、オンライン)</p> <p>第2回グローバル教育協カメカニズムに関するワーキング・グループに出席。(令和3年4月22日、オンライン)</p> <p>第3回グローバル教育協カメカニズムに関するワーキング・グループに出席。(令和3年6月8日、オンライン)</p> <p>○ハイレベル大臣級イベント「コロナから1年:世代を超えた悪影響を避けるため優先されるべき教育再生」に丸山文部科学審議官が出席。(令和3年3月29日、オンライン)</p> <p>○グローバル教育協カメカニズムに関するアジア太平洋地域会合に出席。(令和3年5月11日、オンライン)</p> <p>○グローバル教育会合(Global Education Meeting(GEM))大臣会合に萩生田文部科学大臣がビデオ挨拶にて出席。(令和3年7月13日、オンライン)</p> <p>○第41回ユネスコ総会期間中のサイドイベントとして、グローバル教育会合(Global Education Meeting(GEM))ハイレベル会合が開催。(令和3年11月19日、於:ユネスコ本部(フランス))</p>	

実績	今後の予定
<p>○アジア太平洋地域教育大臣会合が開催。末松文部科学大臣が冒頭挨拶としてビデオメッセージを寄稿。(令和4年6月5日～7日、於:バンコク(タイ))</p> <p>○SDG4ナショナルコーディネーター 地域ネットワーク会合が開催。(令和4年6月8日、於:バンコク(タイ))</p> <p>○国連教育変革サミット プレ会合に義本文部科学事務次官が出席。(令和4年6月28日～30日、於:ユネスコ本部(フランス))</p> <p>○「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての教育に関する勧告」に関するアジア太平洋地域コンサルテーション会合(令和4年4月6日～7日、オンライン)、国際専門家グループ会合(5月12日～13日、6月7日～8日、6月22日～23日、オンライン)等が開催。</p>	<p>○国連教育変革サミットが開催予定。(令和4年9月16日～19日、於:ニューヨーク(米国))</p>
<p><国内におけるESDの推進></p> <p>○「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するグローバル・アクション・プログラム」実施計画(ESD国内実施計画)レビューをとりまとめ。</p> <p>○ESD for 2030に基づく次期ESD国内実施計画の策定に向けて、ESD円卓会議を2回開催。</p> <p>○持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議において、我が国における「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関する実施計画(第2期ESD国内実施計画)を策定。</p> <p>○政府として、持続可能な開発のための教育(ESD)の推進や国内におけるユネスコ活動を通じた持続可能な社会の実現等が記載された「SDGsアクションプラン2022」を策定。</p> <p>○第2期ESD国内実施計画の策定に合わせ、「持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引」の改訂版を公表し、第2期ESD国内実施計画と合わせて、全国の教育委員会、学校、教育機関等へ周知するとともに、各種研修会等で紹介。</p>	<p>○引き続き、第2期ESD国内実施計画の周知に努めるとともに、本計画に基づき、国内外の各ステークホルダーによるESD活動を推進。</p> <p>○引き続き、学校教員向けに作成した「持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引」の活用を促進。</p>
<p><国内におけるSDG4の推進></p> <p>○「女子教育とイノベーション」をテーマに「持続可能な開発目標達成に向けた国際教育協力日本フォーラム(第17回)(17th JEF for SDGs)」を開催。(令和3年2月2日、オンライン)</p>	
<p><ユネスコスクール等のネットワーク></p> <p>○令和元11月現在、1,120校がユネスコスクールに登録。</p> <p>○世界一の加盟数を誇る中、今後も活動の質を維持し、ユネスコスクールのさらなる活性化に向けて、第141回(令和2年6月18日)及び、第142回(令和2年8月21日)、第143回(令和2年11月10日)および第144回(令和2年2月26日)教育小委員会において、ユネスコスクールの現状の課題とともに論点の整理を行い、「ユネスコスクールの新たな展開に向けて」を取りまとめ。</p> <p>○「ユネスコスクールの新たな展開に向けて」について全国の教育委員会等に周知するとともに、国内手続きを終え、ユネスコに申請・認可を待つ学校を「ユネスコスクールキャンディデート」として国内ネットワーク活動への参加ができる制度を開始。131校を「ユネスコスクールキャンディデート校」として認定。</p> <p>○ユネスコスクール加盟審査基準及び審査体制の見直しを実施。</p> <p>○令和4年度よりユネスコスクールレビューを開始。令和4年度にレビュー対象となる約200校に対して、書面でのレビューに加えて、オンラインによる研修会(8月9日、10日、22日、23日)を開催。</p>	<p>○教育小委員会の議論に基づきまとめた「ユネスコスクールの新たな展開に向けて」に沿って、ユネスコスクールのネットワーク機能強化、広報・普及の強化、レビュープロセスの導入等を通じ、我が国ユネスコスクールの活動活性化に繋がる方策を実施。</p>

実績	今後の予定
<p>○ユネスコスクール全国大会やユネスコスクール地域ブロック大会の開催を通じ、各学校で取り組まれている実践例の発表等を通じ、新学習指導要領を踏まえたESDの今後の展開等について、理念や事例を共有。</p> <p>-令和元年度:全国大会については、令和元年11月に福山市立大学(広島県)で開催、全国各地から800名を超える参加。地域ブロック大会については、全国4箇所で開催した。</p> <p>-令和2年度:全国大会については、令和2年12月にオンラインで開催し800名を超える参加。地域ブロック大会については、全国3箇所にてオンラインで開催。</p> <p>-令和3年度:全国大会については、令和3年11月にオンラインで開催し300名を超える参加。当日配信後には、2022年2月18日までアーカイブ配信を実施し、約1000名が視聴。地域ブロック大会については、関東地域ブロック大会を令和3年8月に成蹊学園及びオンラインで開催。</p> <p>-令和4年度:関東地域ブロック大会を令和4年7月に創価大学で開催。</p> <p>○ユネスコスクール事務局及び全国に24大学あるASPUvnetによる各ユネスコスクール及び加盟申請希望校に対する支援を実施。</p> <p>○関係機関などとユネスコスクールとの連携の具体策について協議。</p>	<p>○令和4年度の全国大会の日程及び開催方法は検討中。</p> <p>○「ユネスコ未来共創プラットフォーム」事業等を通じて、ユネスコスクールと地域の団体、多様なステークホルダーとの連携を促進。</p> <p>○ユネスコスクールの取組について、効果的な情報共有と発信方法の拡充を図る。</p>

実績	今後の予定
2 「国連海洋科学の10年」に向けた活動の活性化	
＜10年にかかる実施計画策定に関する国際協力＞	
<ul style="list-style-type: none"> ○実施計画ドラフトの紹介ウェビナーへの参画。(令和2年4月2日 オンライン) ○第3回エグゼクティブ・プランニング・グループへの出席。(令和2年4月30日、オンライン) ○実施計画情報セッションへの参画。(令和2年7月9日、オンライン) ○実施計画が国連海洋及び海洋法に関する包括決議の一環として、感謝とともに留意することとされた。(令和2年12月31日) ○実施計画日本語版が完成。文部科学省ホームページに掲載。(令和3年12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○実施計画策定後も、産官学民の連携を促進し、国内・地域間・国際レベルにおいて様々な枠組みにおいて取組を推進。
＜国内における推進＞	
<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年2月25日、「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」日本国内委員会発足。 ○「国連海洋科学の10年」パンフレットの作成(文部科学省事業「日本/ユネスコパートナーシップ事業」の一環としてJAMSTECが作成。その後、改訂版が令和3年1月に完成。) ○学会や各種イベントにおける「国連海洋科学の10年」の紹介。(海洋学会、海洋政策学会、日本学術会議公開シンポジウム、笹川平和財団、イオン未来の地球フォーラム、全国海洋教育サミット等) ○国連海洋科学の10年第1回国内委員会及び研究会の開催。(令和3年5月17日) ○文部科学省とアニメ映画『深海のサバイバル!』とのタイアップ(8月13日公開)により、「国連海洋科学の10年」をアピール。深海調査の監修にはJAMSTEC(国立研究開発法人海洋研究開発機構)の研究者らが参加。 ○国連海洋科学の10年第2回国内委員会及び研究会の開催(令和3年10月5日)。 ○国連海洋科学の10年キックオフ会合in隠岐ジオパークの開催。当会合において、「国連海洋科学の10年における日本ジオパークネットワーク(JGN)取組推進宣言」が出された(令和3年11月13日)。 ○国連海洋科学の10年西太平洋周辺地域キックオフ会合を開催(令和3年11月25日・26日)。 ○国連海洋科学の10年第3回国内委員会及び研究会の開催(令和4年2月22日)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、学会や各種イベントにおける「国連海洋科学の10年」の紹介等を通じ、機運を醸成。

実績	今後の予定
<p>3 加盟国間の友好と相互理解の促進のためのユネスコ改革への貢献</p>	
<p><ユネスコ改革について></p>	
<p>アズレー事務局長のリーダーシップの下、2030年アジェンダ達成に向けた事業の実施促進と、ユネスコ所掌分野の国連システム内での主導的役割の確保を目標とし、①構造改革及びマネジメントカルチャーの強化②作業効率性の強化③2030年に向けての戦略を3つの柱とした改革を進め、その成果を中期戦略(2022-2029年)に反映させることを目指してきた。なお、③のために立ち上げられたアズレー事務局長直轄の12名の有識者による「ハイレベル・リフレクション・グループ」については、我が国より猪口委員にメンバーとして複数の会合にご出席いただいている。その後、令和3年中の第211回及び第212回ユネスコ執行委員会において改革の進捗の報告と中期戦略案の議論がなされ、令和3年11月の第41回ユネスコ総会においてユネスコ中期戦略が採択された。</p>	
<p><「教育の未来」について></p>	
<p>○ユネスコの「教育の未来」国際委員会委員に青柳氏(東京大学名誉教授)が選出。 ○第41回ユネスコ総会期間中のサイドイベントにおいて、「教育の未来」国際レポートが公表。(令和3年11月10日、於:ユネスコ本部(フランス))</p>	
<p><「AIの倫理」について></p>	
<p>○令和元年11月に開催された第40回ユネスコ総会において「AIの倫理」の勧告策定が決定。 ※なお、「AIの倫理」勧告の策定に関しては、ユネスコ事務局の要請に基づき、外務省の日本信託基金等より、会議開催費等の必要な支援を実施。 ○「AIの倫理」勧告草案作成のためのアドホック専門家会合のメンバーに東京大学大学院情報学環・学際情報学府の須藤教授(現:中央大学教授)を選出。 ○第1回「AIの倫理」勧告草案作成のためのアドホック専門家会合の開催。(令和2年4月20日～24日、オンライン) ○「AIの倫理」勧告草案作成のためのオンライン調査の実施。(令和2年7月1日～31日) ○「AIの倫理」勧告草案作成のための地域コンサルテーション会合の開催。(令和2年7月23日～24日、オンライン) ○第2回「AIの倫理」勧告草案作成のためのアドホック専門家会合の開催(令和2年8月31日～9月4日、オンライン)。 ○ユネスコ事務局より送付のあった「AIの倫理」勧告第一次案に対して、日本政府より意見を提出。(令和2年12月) ○政府間特別委員会が開催。(令和3年4月26日～30日、6月21日～25日。セッション間コンサルテーションも6月1日～4日、7～11日、16～18日に開催、オンライン。) これらの会合での議論等を経て、第41回ユネスコ総会にて勧告案が提出。 ○第41回ユネスコ総会にて「AIの倫理に関する勧告」が採択(令和3年11月9日～24日)。</p>	<p>○ユネスコ憲章に基づき、採択後1年以内に勧告について国会に報告予定。 ○外務省の日本信託基金を通じて、勧告の効果的な実施を念頭に、アフリカ、小島嶼開発途上国を対象とした途上国支援を実施中。</p>

実績	今後の予定
<p><「オープンサイエンス」について></p> <p>※第40回ユネスコ総会において、「オープンサイエンスに関する勧告」策定について、多くの国から賛同があり、可能な限り早いセッション(第41回総会が望まれる)において勧告草案を提出することが決定。</p> <p>○世界科学デーのオープンサイエンスセッションに国立科学技術・学術政策研究所の林上席研究官が登壇。(令和元年11月9日 於:ユネスコ本部)</p> <p>○オープンサイエンスの役割と国際科学協力に関するハイレベル会合の開催。(令和2年3月30日)</p> <p>○オープンサイエンス勧告諮問委員会のメンバーに国立科学技術・学術政策研究所の林上席研究官が選出。</p> <p>○第1回オープンサイエンス勧告諮問委員会の開催。(令和2年7月16日～17日、オンライン)</p> <p>○オープンサイエンスに関する勧告地域コンサルテーション会合の開催。(令和2年9月15日、オンライン)</p> <p>○オープンサイエンスに関する勧告第一次ドラフト情報会合の開催。(令和2年10月19日、オンライン)</p> <p>○オープンサイエンスに関する勧告第一次ドラフトの加盟国意見照会・我が国からの意見を提出。(令和3年1月)</p> <p>○オープンサイエンスと知的所有権に関する専門家会合の開催。(令和3年4月23日、オンライン)</p> <p>○オープンサイエンスに関する勧告政府間特別専門家会合の開催。(令和3年5月6日～11日、オンライン)</p> <p>本会合での議論等を経て、令和3年11月開催予定の第41回ユネスコ総会に向けて勧告案が提出。</p> <p>○オープンサイエンスの勧告案に関する政府間特別委員会の開催。(令和3年5月10日～12日、オンライン)</p> <p>○第41回ユネスコ総会にて「オープンサイエンスの勧告」が採択。(令和3年11月9日～24日)</p> <p>○オープンサイエンスに関するベストプラクティスを世界中から募集し、日本からも提出。(令和4年7月)</p> <p>○オープンサイエンスの実施のためのアドホック作業部会の開催。(令和4年5月～9月)</p>	<p>○引き続き、ユネスコが開催する各会合に参加し、日本の取組等を積極的に発信。</p> <p>○ユネスコ憲章に基づき、採択後1年以内に勧告について国会に報告予定。</p>

実績	今後の予定
<p><ユネスコ「世界の記憶」について></p> <p>○制度の包括的見直し。 令和元年10月の第207回ユネスコ執行委員会において、「世界の記憶」事業について、凍結状態を維持したまま、令和2年6月まで包括的見直しのための加盟国ワーキンググループを継続し、同年10月の第210回執行委員会に最終報告書を提出することが決定。その後、令和2年7月の第209回ユネスコ執行委員会において、新型コロナウイルス感染症の影響により同グループにおける議論が実施されず、令和3年3月まで同グループのマンデートが延長。 令和3年4月の第211回執行委員会において、ワーキンググループによる議論の成果を踏まえ、我が国が主張してきた主要な改善点が盛り込まれた、最終報告書が承認。</p> <p>○ユネスコ「世界の記憶」国際登録への推薦。 ユネスコにおいて2022-2023登録サイクルにおける国際登録の申請募集が開始されたことを受け、国際登録に推薦する国内の候補案件の申請募集を実施。令和3年11月末に日本からの申請案件2件をユネスコへ提出。令和5年のユネスコ執行委員会にて登録の可否が決定される予定。</p> <p>○ユネスコ「世界の記憶」地域登録の国内申請募集。 ユネスコ「世界の記憶」国際登録の制度改正を受け、地域登録も同様に制度の見直しが行われた。令和4年2月より「世界の記憶」アジア太平洋地域委員会(MOWCAP)において2022登録サイクルにおける地域登録の申請募集が開始され、それを受けて国内申請募集を実施。</p> <p>○「世界の記憶」バーチャル政策対話への支援。 ユネスコが「危機にさらされている記録物: デジタルアーカイブにおける政策ギャップ」をテーマとした政策対話(オンライン)を開催。(令和2年10月) その成果は第2回グローバルポリシーフォーラムに取り入れられた。</p> <p>○記録遺産に関する調査の結果報告。 日本の信託基金を用いて、危機にある記録遺産に関する調査が実施され、その結果が報告。</p> <p>○ワークショップの開催 日本の信託基金を用いて、UNESCOダカール事務所と協力して記憶機関における防災計画策定のワークショップ(約20か国70名以上が参加)を実施。 (令和3年6月。於: アフリカ・セネガル) 邦人専門家が我が国における先進事例を紹介。</p> <p>○第2回グローバル・ポリシー・フォーラムの開催。 「記録物の保護と災害リスクの軽減・管理」をテーマに開催。 (令和3年9月21日～22日、オンライン)</p>	<p>○第3回グローバル・ポリシー・フォーラムの日本開催。 2022年は、ユネスコ「世界の記憶」が30周年の節目の年を迎えることを機に、日本の信託基金(JFIT)を活用し、ユネスコが日本との共催により、第3回目となるGPFを日本(東京)で開催。「危機にある記憶遺産のよりよい保存にかかる国際協力の強化」をテーマに、諸外国の専門家を招聘し、国内における「世界の記憶」事業の認知度向上を図る。(令和4年11月21日～22日、24日 日本(東京)にて対面とオンラインの形式で開催予定。)</p> <p>○令和4年度新規事業である、ユネスコ「世界の記憶」に関する推進体制の構築事業の取組を通じて、ユネスコ「世界の記憶」に対する国民の理解促進、機運情勢を促進する予定。</p>

実績	今後の予定
4 ユネスコ活動のメリットを生かした地域創生や多文化共生社会の構築	
＜ユネスコ登録地域・認定機関等の活用・ネットワーク等＞	
<p>○地域文化財総合活用推進事業による文化遺産の活用。 ユネスコ世界遺産、無形文化遺産等の構成要素を対象に、文化遺産の価値・魅力の発信、保存・活用の担い手の育成、遺産の公開やシンポジウムの開催等を支援し、文化振興とともに地域活性化を推進。(令和4年度:世界遺産9地域、無形文化遺産3地域などを支援)</p> <p>○世界遺産サミットの開催(主催:世界文化遺産地域連携会議)。 ・「第6回世界遺産サミット」を開催。(令和元年11月 於:日光) ・「第7回世界遺産サミット」を開催。(令和2年10月 於:沖縄) ※令和3年10月末に富士宮市で「第8回世界遺産サミット」を開催予定であったが、静岡県に緊急事態宣言が適用された事態を受け、中止。</p> <p>○ユネスコ創造都市ネットワークの国内ネットワークの活動。 ・旭川市がユネスコ創造都市ネットワーク(デザイン分野)に加盟。国内のユネスコ創造都市は全9都市となる。(令和元年10月) ・金沢市が「ユネスコ創造都市ネットワーク分野別会議2019」を開催。クラフト&フォークアート分野でユネスコ創造都市に選定されている7か国9都市が、各都市が抱える問題や交流事業について意見交換を実施。(令和元年10月 於:金沢市) ・札幌市が「ユネスコ創造都市ネットワーク国内都市会議」を開催。国内のユネスコ創造都市は全9都市がUCCN国内都市における今後の連携事業や他都市との連携について意見交換を実施。(令和3年8月 於:札幌市) ・臼杵市がユネスコ創造都市ネットワーク(食文化分野)に加盟。国内のユネスコ創造都市は全10都市となる。(令和3年11月)</p> <p>○「第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた」の開催。全国のジオパーク関係者が集結し、ジオパークの活動について共有・議論した。各ジオパークの展示や体験コーナー、物産展など一般にも公開。(令和元年10月31日～11月5日 於:大分県)</p> <p>○「第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会」の開催。全国のジオパーク関係者が集結し、ジオパークの活動について共有・議論した。各ジオパークの展示や体験コーナー、物産展など一般にも公開。(令和3年10月3～5日、於:島根県)</p> <p>○白山手取川ジオパークのユネスコ世界ジオパークへの新規申請。(令和2年11月) ○糸魚川、島原半島、隠岐、伊豆半島ユネスコ世界ジオパークのユネスコ世界ジオパーク再認定審査進捗報告書の提出。(令和3年1月) ○洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークのエリア変更申請書の提出。(令和3年11月) ○阿蘇、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークのユネスコ世界ジオパーク再認定審査進捗報告書の提出。(令和4年1月)</p>	<p>○引き続き、文化財の保存・活用を通じた文化振興及び地域活性化を推進。</p> <p>○「2022世界遺産サミット」を開催予定。(令和4年10月末 於:富岡市)</p> <p>○令和4年11月10日に臼杵市で開催されるCCNJ(Creative City Network of Japan)国際ネットワーク部会に参加。参加自治体に対して、ユネスコ創造都市ネットワークの事業内容についての広報及び、意見交換等を実施予定。</p> <p>○第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会。(令和4年10月21～23日 於:石川県)</p> <p>○ユネスコ世界ジオパーク新規申請地域(白山手取川)、再認定審査地域(糸魚川、島原半島、隠岐、伊豆半島、阿蘇、山陰海岸)の国際審査員による現地審査(今後順次実施)を経て、ユネスコ世界ジオパークカOUNシルにおいて審議予定。</p>

実績	今後の予定
<p>○第38回日本ジオパーク委員会の開催。 日本ジオパーク委員会の認定を受ける「日本ジオパーク」9地域の再認定について審議され、審議のなかで各地域における好事例等について意見交換。(令和元年12月25日、於：東京)</p> <p>○第39回日本ジオパーク委員会の開催。ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請(白山手取川ジオパーク)等について審議。(令和2年6月1日、オンライン)</p> <p>○第40回日本ジオパーク委員会の開催。ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請地域審査(白山手取川ジオパーク)、ユネスコ世界ジオパーク再認定審査事前確認(糸魚川、島原半島、隠岐、伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク)、新規認定地域 エリア拡大(桜島・錦江湾)について審議。(令和2年10月21日 於：東京・オンライン)</p> <p>○第41回日本ジオパーク委員会の開催。日本ジオパーク委員会の認定を受ける「日本ジオパーク」10地域の再認定審査及び新規認定地域(エリア拡大：桜島・錦江湾)の審査等について審議。(令和3年1月20日、21日、2月5日、オンライン)</p> <p>○第42回日本ジオパーク委員会の開催。ユネスコ世界ジオパーク2地域(山陰海岸・阿蘇)のプログレスレポート確認・審査事前確認及び洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークのエリア変更について審議。(令和3年5月29日、オンライン)</p> <p>○第43回日本ジオパーク委員会の開催。ユネスコ世界ジオパーク2地域(山陰海岸・阿蘇)のプログレスレポート確認・審査事前確認について審議。(令和3年9月25日、オンライン)</p> <p>○第44回日本ジオパーク委員会の開催。ユネスコ世界ジオパーク2地域(山陰海岸・阿蘇)のプログレスレポート確認・審査事前確認について審議。(令和3年12月22日、令和4年1月5日、28日、オンライン)</p> <p>○第45回日本ジオパーク委員会の開催。ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請地域(南紀熊野ジオパーク)、日本ジオパーク新規認定(エリア拡大)(霧島ジオパーク)の現地調査の可否について審議。(令和4年5月21日)</p> <p>○日本ジオパークの基準検討会議の開催。審査基準の改善を図るため、「日本ジオパーク」及び「ユネスコ世界ジオパーク」の現地審査員経験者及び日本ジオパーク委員会委員が集まり、現地審査での経験について共有し、自己評価表の活用等について意見交換を実施。(令和2年1月31日、令和3年2月4日、令和4年1月29日 於：東京)</p> <p>○文化遺産国際協力コンソーシアム研究会の開催。 ・「文化遺産とSDGsⅡ－世界では、いま何が語られているのか－」をテーマに公開研究会を開催。ユネスコ世界遺産センター、イコモス(国際記念物遺跡会議)などの取組のほか、日本の文化遺産国際協力の事例紹介が行われた。(令和2年1月31日、於：東京) ・「文化遺産とSDGsⅢ－地域社会における文化遺産の役割を考える－」をテーマに公開研究会を開催し、134名が参加。各地の事例紹介が行われた。(令和3年1月31日、オンライン)</p>	<p>○文化遺産国際協力コンソーシアムを通じた文化遺産保護への関心・理解の促進シンポジウムや研究会の開催等を通じて、引き続き情報を発信。</p>

実績	今後の予定
<p>○EABRN(東アジアユネスコエコパークネットワーク)会合ステリング・コミッティ臨時会合の開催。(令和2年10月20日、オンライン)</p> <p>○SeaBRNet(東南アジアユネスコエコパークネットワーク)オンラインの開催。(令和2年7月16日、11月26日、オンライン)</p> <p>○EABRN(東アジアユネスコエコパークネットワーク)会合ステリング・コミッティ会合の開催。(令和3年4月26日、オンライン)</p> <p>○第13回SeaBRNet(東南アジアユネスコエコパークネットワーク)会合の開催。(令和3年11月15日～17日 於:ロンボク=リンジャニユネスコエコパーク/ユネスコ世界ジオパーク(インドネシア)・ハイブリッド会合)</p> <p>○日本MAB計画連携大学間ネットワークの設立。(令和3年11月)</p> <p>○JBRN(日本ユネスコエコパークネットワーク)大会。各BRからの取組の紹介及び意見交換や、開催地である只見BRの現地視察が行われた。(令和4年7月26～27日 於:福島県只見町)</p> <p>○ユニツイン/ユネスコチェア事業の推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年に新たにユネスコチェア・ユニツインネットワークの認定を希望する国内の大学からの申請各1件を、令和4年4月末にユネスコ本部に申請済み。 ・令和2年に申請した横浜国立大学について令和4年3月30日付で協定書が発効。 	<p>○第16回EABRN会議の開催。(令和4年10月3～7日 於:ウランバートル)</p> <p>○ユニツイン/ユネスコチェア事業の推進。</p> <p>令和4年申請のユネスコチェア1件・ユニツインネットワーク1件について、引き続き、審査状況をフォロー予定。</p>

実績

今後の予定

5 多様なステークホルダーの連携を深める戦略的なプラットフォームの構築

<戦略的プラットフォームの構築に向けて>

○「ユネスコ未来共創プラットフォーム」の構築。

・世界や地域の課題解決に資するユネスコ活動の活性化に向けて、SDGsの達成に向けた取組を進める多様なステークホルダーの知見を得て、国内のユネスコネットワーク拠点の戦略的整備と先進的なユネスコ活動の海外展開を一体的に推進する体制を構築。(令和2年度から)

・①「ユネスコ未来共創プラットフォーム」事務局の構築・運営、②ユネスコスクールネットワーク拠点の運営、③ユネスコ世界ジオパーク拠点の運営、④ユネスコエコパーク拠点の運営を行う事業者を選定(4団体)。

○令和2年度は以下の取組を実施。

①世界や地域の課題解決に資するユネスコ活動の活性化に向けて、多様な人々・団体との連携協働を推進するため、全国セミナーの実施(令和3年2月27日 オンライン)。リレートークの実施(令和3年1月27日、2月8日、2月16日)。海外展開を行う草の根ユネスコ活動を採択団体を通じて実施。

②ユネスコスクールウェブサイトの運営、ユネスコスクールへの各種支援、全国大会及び地方大会を開催。(再掲)。

③ユネスコ世界ジオパーク拠点として、申請地域の支援、現地視察、研修会等の実施。

④ユネスコエコパークの登録地域構成自治体実務者向けに、定期報告書の作成や管理運営に資するワークショップの開催等の実施。

○令和3年度は以下の取組を実施。

①ポータルサイトの充実と日本のユネスコ加盟70周年記念にかかる様々な情報発信、世界や地域の課題解決に資するユネスコ活動の活性化に向けて、多様な人々・団体との連携協働を推進するための全国セミナーの実施(令和3年12月4日 オンライン)、5回のダイアログの開催(令和3年7月28日、8月30日、9月30日、10月25日、11月26日)、海外展開を行う草の根ユネスコ活動を採択団体を通じて実施。②～④事業についても令和2年度に引き続き実施。

○令和4年度、ユネスコ未来共創プラットフォーム事務局については、新規事業者を選定済。

②～④については、令和3年度に引き続き事業を実施中。

○30歳未満の若者による「次世代ユネスコ国内委員会」を組織。(令和3年10月)

○第510回日本ユネスコ国内委員会運営小委員会及び第150回日本ユネスコ国内委員会総会において、次世代ユネスコ国内委員会から、「ユネスコ活動の活性化に向けて(提言)」を発表。(令和4年3月11日 於:文部科学省・オンライン)

○次世代ユネスコ国内委員会からの提言案について世界の若者と議論するYouth Conference for UNESCO -Act for the future-を開催。(令和4年3月15日 於:オンライン)

○令和4年度においても「ユネスコ未来共創プラットフォーム」事業において、①「ユネスコ未来共創プラットフォーム」事務局の構築・運営、②ユネスコスクールネットワーク拠点の運営、③ユネスコ世界ジオパーク拠点の運営、④ユネスコエコパーク拠点の運営を実施。

実績	今後の予定
<p>＜国内委員会委員による活動＞</p> <p>○下記をはじめとした多くの会議等に参加いただくなどの協力をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回アジア太平洋教育2030会合(令和元年10月1日～4日開催、於:タイ) ・第1回SDG-教育2030ステアリング・コミッティ バーチャル会合(令和2年4月2日、オンライン) ・第2回SDG-教育2030ステアリング・コミッティ バーチャル会合(令和2年6月4日、オンライン) ・科学に関するアジア太平洋地域会合(令和2年5月19日、オンライン) ・第27回IHPアジア太平洋地域運営委員会(IHP-RSC)(令和2年10月26日～27日開催、オンライン) ・IHP政府間理事会第3回臨時会合(令和2年11月30日～12月1日開催、令和3年2月22日～24日開催、オンライン) ・第8回SDG-教育2030ステアリング・コミッティ(令和3年1月14日、オンライン) ・第53回IOC執行理事会(令和3年2月4日～9日開催、オンライン) など ・IOC西太平洋政府間地域小委員会(WESTPAC)第13回政府間会合(令和3年4月27日～29日、オンライン) ・ESDに関するユネスコ世界会議(令和3年5月17日～19日、オンライン) <p>・第31回IOC総会、第54回IOC執行理事会(令和3年6月14日～24日、於:パリ(フランス)・オンライン)</p> <p>・第24回IHP政府間理事会(令和3年6月28日～30日、於:パリ(フランス)・オンライン)</p> <p>・SDG-教育2030ステアリング・コミッティ(令和3年6月28日、オンライン)</p> <p>・グローバル教育会合(Global Education Meeting(GEM))大臣会合(令和3年7月13日、オンライン)</p> <p>・IHP政府間理事会第4回臨時会合(令和3年9月29日～10月1日開催、オンライン)</p> <p>・第25回IHP政府間理事会(令和4年4月26日～29日開催、於:パリ(フランス)・オンライン)</p> <p>・第34回MAB計画国際調整理事会(令和4年6月13日～17日開催、於:パリ(フランス)・オンライン)</p> <p>・第55回IOC執行理事会(令和4年6月14日～17日開催、於:パリ(フランス))</p> <p>○下記をはじめとした多くの会議等に参加いただくなどの協力をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア太平洋地域教育大臣会合(令和4年6月5日～7日、於:バンコク(タイ)) ・国連教育変革サミット プレ会合(令和4年6月28日～30日、於:パリ(フランス)) <p>○「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての教育に関する勧告」に関するアジア太平洋地域コンサルテーション会合及び国際専門家グループに参画いただいた。</p>	<p>○日本ユネスコ国内委員会が審査を担う各種コンクール、コンテスト等について、同国内委員会委員等に審査対応を依頼予定。</p> <p>○下記の会議に国内委員会委員に参加いただく予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア太平洋地域教育大臣会合(APREMC-II)(令和4年6月5日～7日、於:バンコク(タイ)) ・IHPテーマ別作業部会(9月～12月(予定)) ・第32回IOC総会、第56回IOC執行理事会(令和5年6月(予定) 於:パリ(フランス)) ・第35回MAB計画国際調整理事会(令和5年6月(予定) 於:パリ(フランス))

実績	今後の予定
<p data-bbox="78 76 324 108"><広報大使の活動></p> <p data-bbox="78 116 1108 204">○我が国のユネスコ活動について広く国民の関心を高めることを目的に、平成30年度から令和元年度を任期として3名の日本ユネスコ国内委員会広報大使を任命し、広報活動等に従事していただいた。</p> <p data-bbox="78 209 1108 264">○令和4年度および令和5年度を任期として、3名の日本ユネスコ国内委員会広報大使を全員再任した。</p> <p data-bbox="78 269 1108 357">○令和3年度は、日本のユネスコ加盟70周年記念メッセージをユネスコ未来共創プラットフォームポータルサイトにて発信、こども霞が関見学デー(8月19日、オンライン)で「ユネスコトークイベント」を開催、3名の日本ユネスコ国内委員会広報大使にそれぞれ講演。</p> <p data-bbox="78 362 1108 418">○令和4年度は、こども霞が関見学デー(8月4日実地開催)において、日本ユネスコ国内委員会広報大使のさかなクンを招いて、トークショーを開催。</p>	<p data-bbox="1120 116 1624 148">○引き続き広報活動等に従事いただく予定。</p>